

現任看護教員の課題

実態調査による看護教員の現状から

富山大学大学院医学薬学研究部

永山くに子

2009.11.12

調査目的

看護教員の養成やキャリアアップ、離職などから、現任看護教員の課題を明らかにする

調査方法

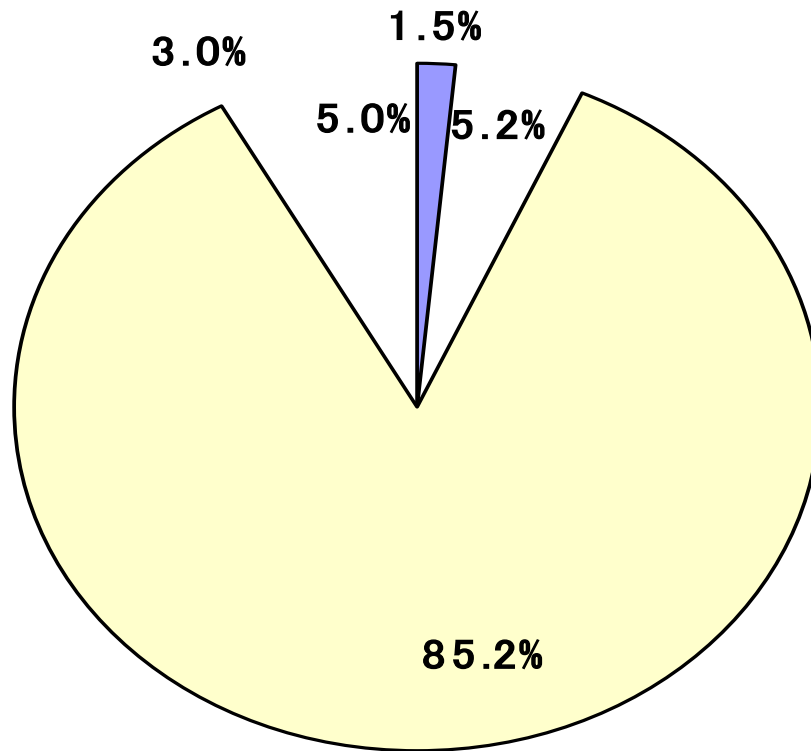
- 調査対象；全国の看護教育機関 1,054校
(回収率60.7%、有効回答率97%)
- 調査法；無記名質問紙調査法
- 調査項目
 - 養成関連(教員養成講習会の受講状況)
 - 経験年数と定着
 - 臨床現場との連携
 - 看護教員の資質向上策
- 調査期間 2009. 7～9

教育課程別協力校(627校)の内訳

教育課程	協力校数	比率(%)
大学	55	8.8
短期大学	10	1.6
3年課程	298	47.5
2年課程	91	14.5
2年通信制	6	1
5年一貫校	31	4.9
准看護師養成	124	19.8
高等学校衛生看護	12	1.9
計	627	100

3年課程(298校)の専任教員について

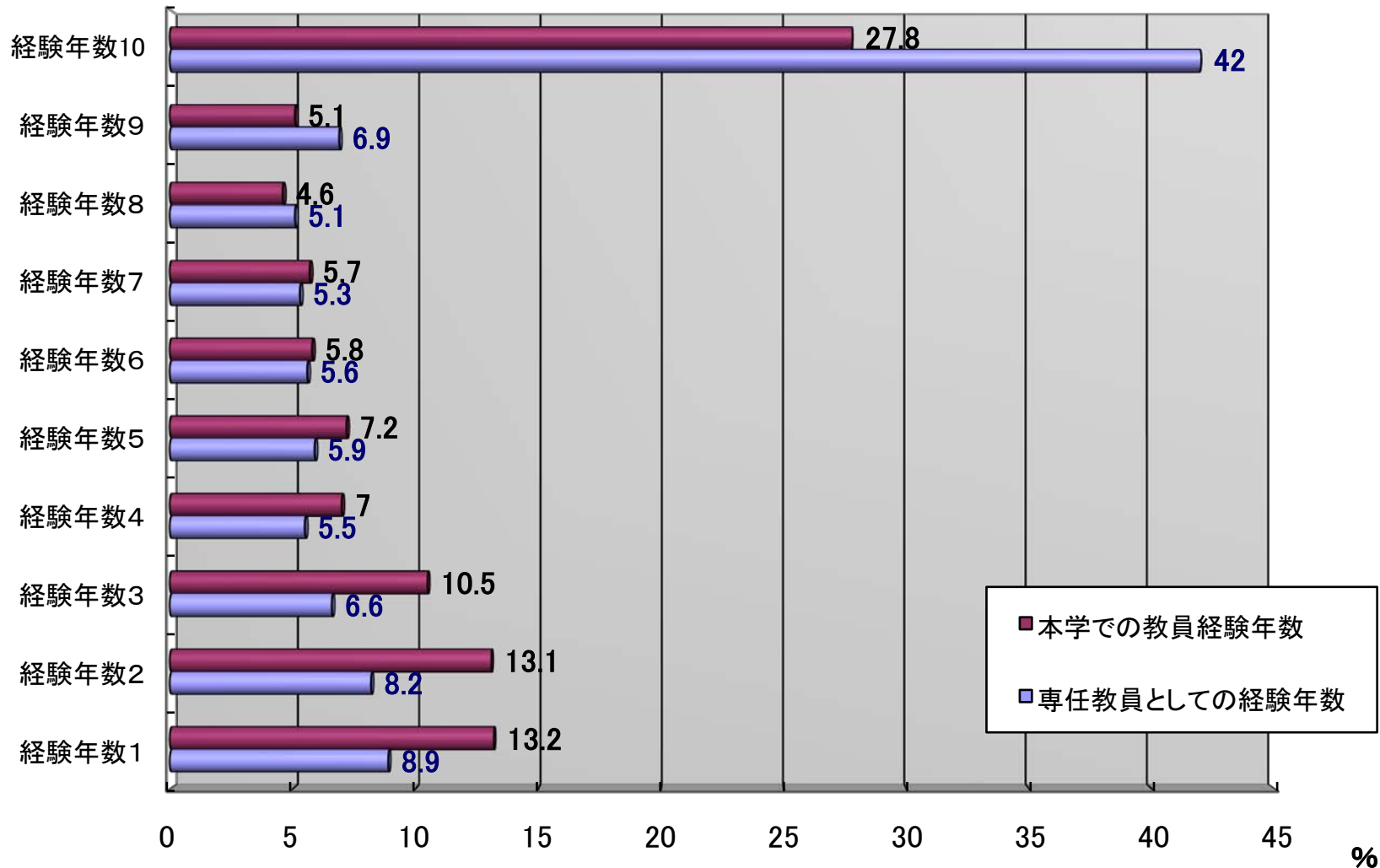
専任教員の要件



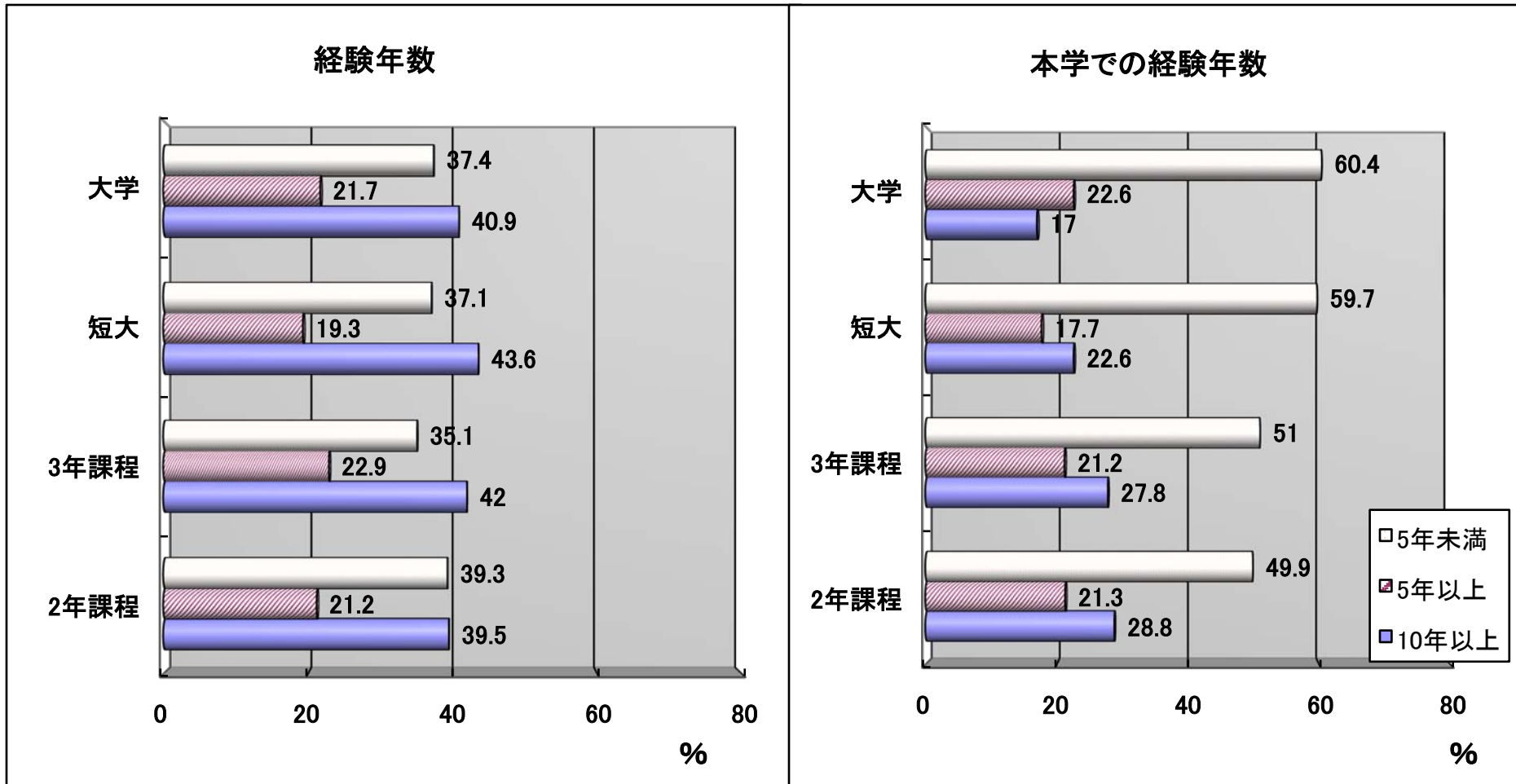
- 大学での教員資格審査
実務経験と教育科目4単位
- 5年実務と教員養成講習
同等以上の学識経験
- その他

3年課程（298校）の専任教員について

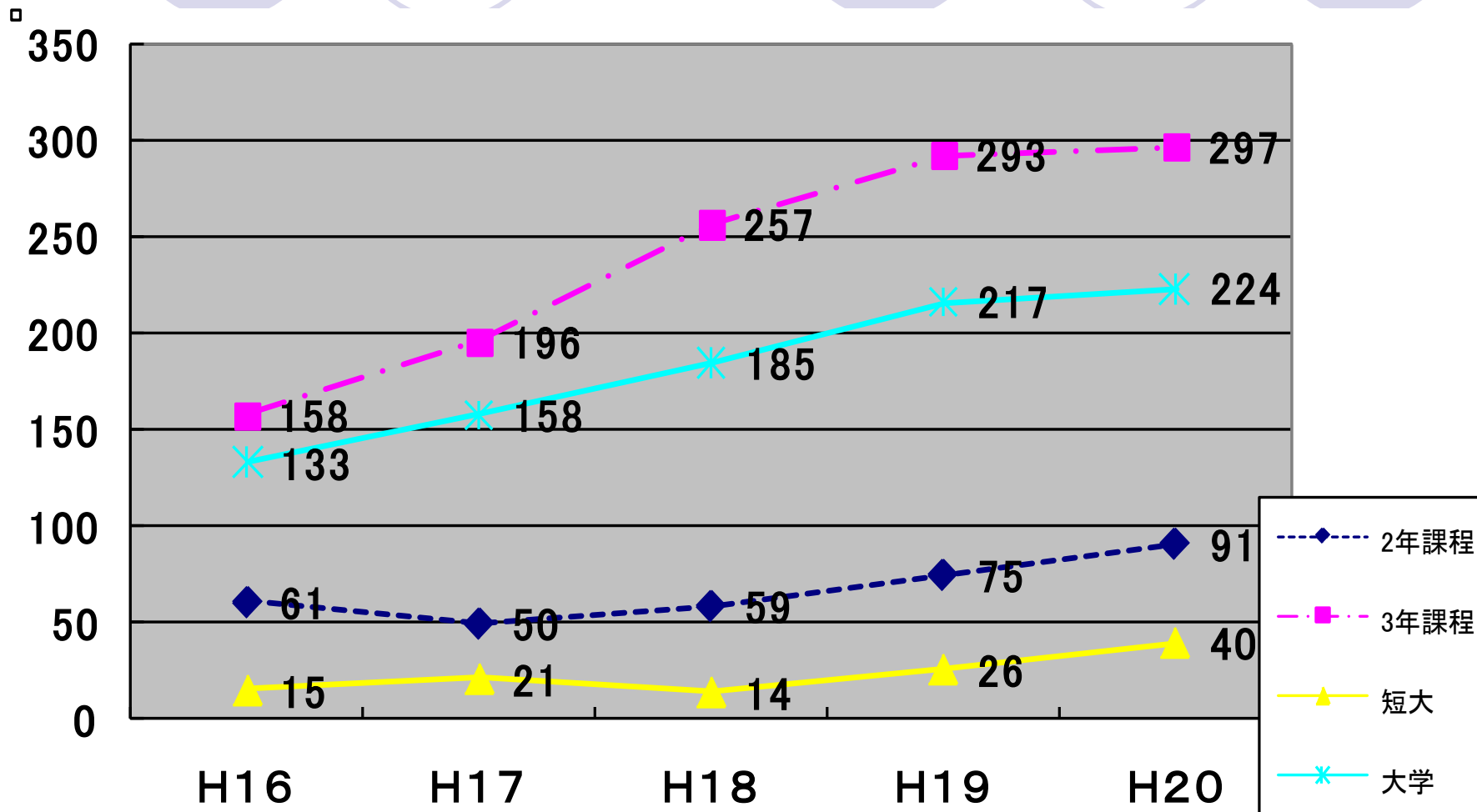
教員経験年数と本学での教員経験年数の比較



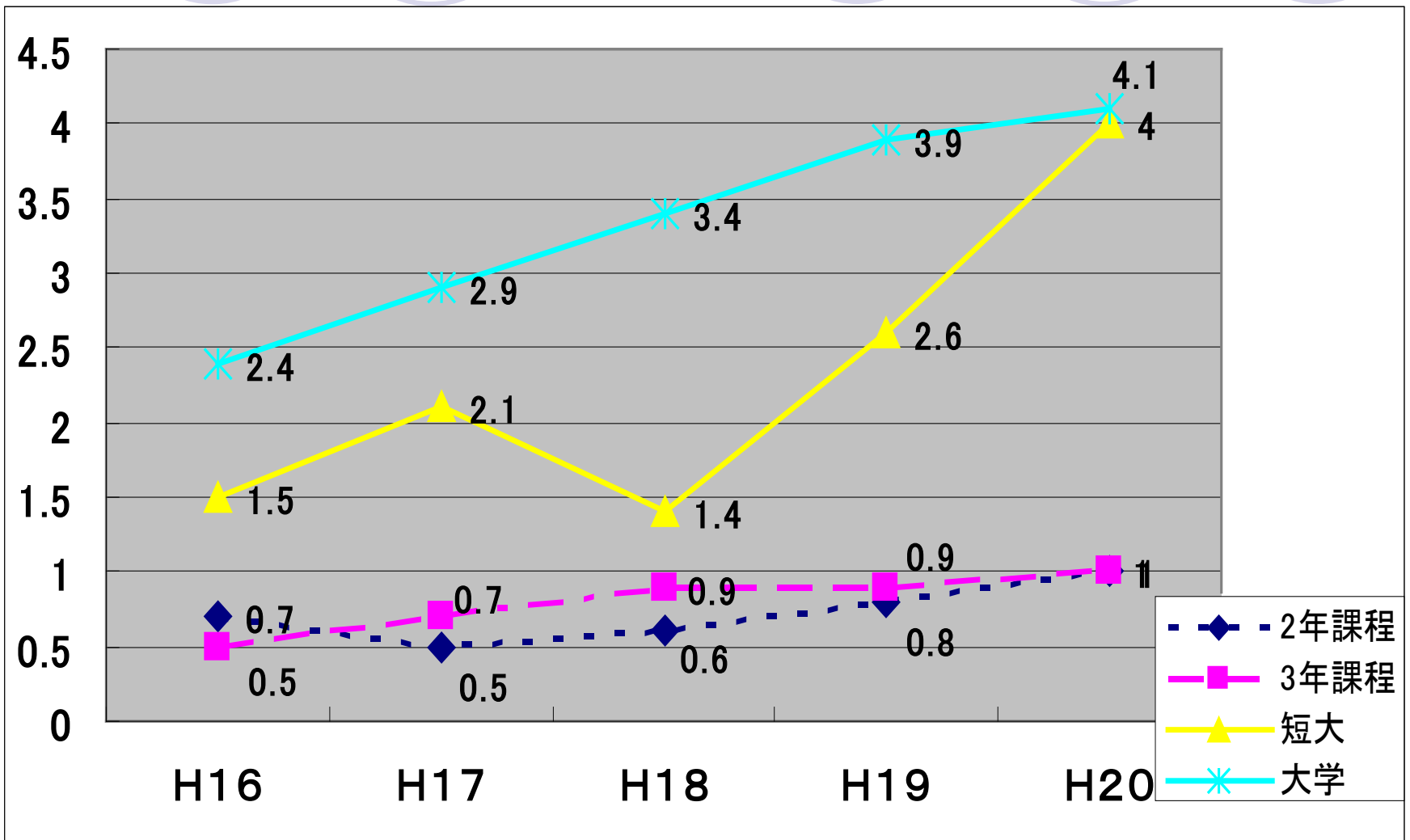
教育課程別の経験年数の比較



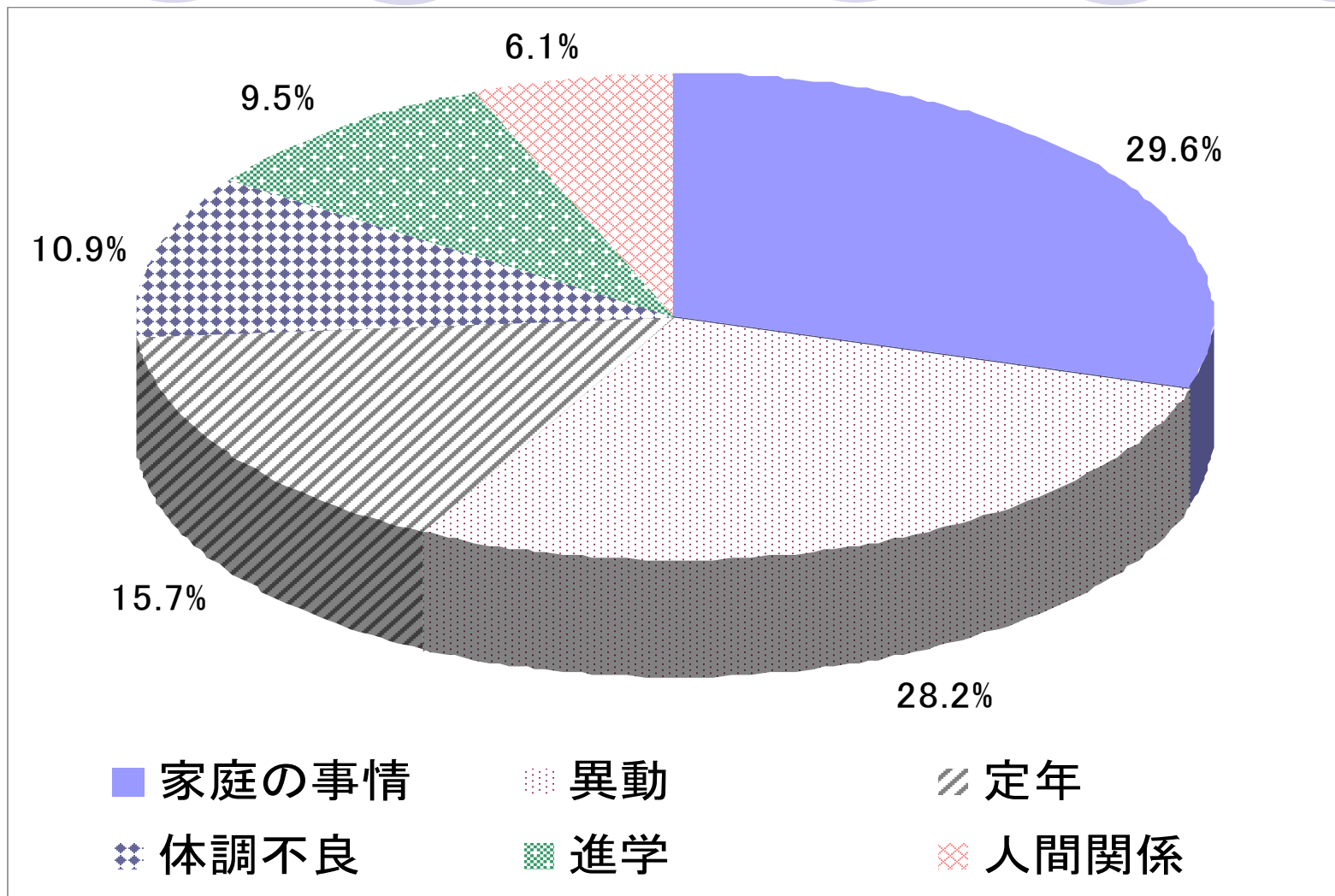
教育課程別の離職者総数の推移



教育課程別平均離職者数の推移



離職の理由



看護教員に求められる能力

看護実践能力

看護教育能力

マネジメント能力

コミュニケーション能力

感性
等

看護教員に対する資質向上策の現状

自己点検
自己評価

リフレクション

学会・FD
研修会

臨床との交流
情報交換

進学

予算・時間確保

調査結果からみた看護教員の現状

- 教員経験年数は、5年以内の者が3割を占めている
- 経験年数10年以上の教員が異動している
- 離職率が上昇傾向にある
- 資質向上のための取り組みとしては、FDや研修会が中心である